

## 「パウロ、捕らえられる」

2016年08月26日

使徒言行録 21章 27節～36節 七日の期間が終わろうとしていたとき、アジア州から来たユダヤ人たちが神殿の境内でパウロを見つけ、全群衆を扇動して彼を捕らえ、こう叫んだ。「イスラエルの人たち、手伝ってくれ。この男は、民と律法とこの場所を無視することを、至るところでだれにでも教えている。その上、ギリシア人を境内に連れ込んで、この聖なる場所を汚してしまった。」彼らは、エフェソ出身のトロフィモが前に都でパウロと一緒にいたのを見かけたので、パウロが彼を境内に連れ込んだのだと思ったからである。それで、都全体は大騒ぎになり、民衆は駆け寄って来て、パウロを捕らえ、境内から引きずり出した。そして、門はどれもすぐに閉ざされた。彼らがパウロを殺そうとしていたとき、エルサレム中が混乱状態に陥っているという報告が、守備大隊の千人隊長のもとに届いた。千人隊長は直ちに兵士と百人隊長を率いて、その場に駆けつけた。群衆は千人隊長と兵士を見ると、パウロを殴るのをやめた。千人隊長は近寄ってパウロを捕らえ、二本の鎖で縛るように命じた。そして、パウロが何者であるのか、また、何をしたのかと尋ねた。しかし、群衆はあれやこれやと叫び立てていた。千人隊長は、騒々しくて真相をつかむことができないので、パウロを兵営に連れて行くように命じた。パウロが階段にさしかかったとき、群衆の暴行を避けるために、兵士たちは彼を担いで行かなければならなかった。大勢の民衆が、「その男を殺してしまえ」と叫びながらついて来たからである。

パウロはユダヤ教の律法を守る者であることを証明するために、ナジル人の誓願を立てる信者4人と一緒に、身を清める儀式を受けようとエルサレム神殿に行った。パウロの清めは、30日を要するナジル人の誓願ではなく、異邦から帰国した者が受ける清めの7日間の儀式であった。その7日が終わろうとしていた時、境内で、アジア州から来たディアスポラのユダヤ人たちがパウロを見つけ、群衆を扇動して、「イスラエルの人たち、手伝ってくれ。この男は、民と律法とこの場所を無視することを、至るところでだれにでも教えている。その上、ギリシア人を境内に連れ込んで、この聖なる場所を汚してしまった」と叫んだ。パウロは律法と神殿を無視することを教え、異教徒のギリシア人を境内に連れ込んで、聖なる神殿を汚したと煽った。彼らは以前エルサレムで、パウロがエフェソ出身のトロフィモと一緒にいたのを見かけたので、彼を神殿に連れ込んだと思って難癖をつけたのである。彼らの叫び声を聞いて、群衆は駆け寄り、パウロを捕らえ、境内から引きずり出した。神殿が汚されてはいけないと門はどれもすぐに閉ざされた。群衆はパウロにリンチを加え、殺そうとし、エルサレム中が騒乱状態に陥った。身を清めるユダヤ教の儀式を受けたパウロの行為も、彼を憎み、殺そうとする群衆の怒りを抑えることができなかった。

この騒乱がローマ軍の守備大隊の千人隊長に報告された。彼は直ちに兵士と百人隊長を率いて、その場に駆けつけた。エルサレムの騒乱はローマへの反乱暴動に転化しかねないからである。群衆は千人隊長と兵士を見ると、パウロを殴るのをやめた。千人隊長は近寄ってパウロを捕らえ、二本の鎖で縛るように命じた。そして、パウロが何者で、何をしたのかと尋ねたが、群衆はあれやこれやと叫び立て、真相を掴むことができないので、パウロを兵営に連れて行くように命じた。群衆は「その男を殺してしまえ」と叫びながらついて来るので、暴行を避けるために、階段にさしかかった時、兵士たちはパウロを担いで兵舎に連れて行った。パウロはローマの千人隊長によって、かろうじて難を逃れたのである。